



Benjamin Fondane

(1898 - 1944)

年	フォンダーヌの生涯	同時代の出来事
1898年 (0歳)	9月14日、現ルーマニアのヤシ (Jassy) にてバンジャマン・フォンダーヌ (本姓 Wechsler) 生まれる。	ゾラのドレフュス事件に関する公開質問状
1912年 (14歳)	地元の <i>Valuri</i> という雑誌に Fundoianu や Alex Vilara というペンネームで象徴派風の詩を投稿する。	アポリネール『ミラボー橋』
1916年 (18歳)	ユダヤ系の雑誌に Ofi, Ha-shir などのペンネームで聖書を題材にした詩や翻訳を発表する。	<i>Cabaret Voltaire</i> の出版、ルーマニア戦線の大敗
1917年 (19歳)	2月、父イサクが発疹チフスのために亡くなる。享年52歳。象徴派系の詩人 Ion Minulescu や Gala Galaction などと出会い、詩を評価される。	ロシア革命、「シュルレアリスム」の発明
1918年 (20歳)	聖書を題材にした形而上学演劇 (Tagaduinta lui Petru) が上演される。	トリスタン・ツアラによるダダ宣言
1919年 (21歳)	ヤシを離れ、ブカレストに移住。ブカレストのアヴァンギャルドグループに積極的に参加。イオン・ヴィネア、ステファン・ロール、イラリエ・ヴォロンカ、マルセル・イアंकなどと交流する。学業を放棄。	パリ講和会議、ジッド『田園交響楽』
1922年 (24歳)	ジャック・コポーに影響を受けた Insula (島) という前衛劇団を創設。演出家は従兄弟で、姉が女優となった。『ベルシャザルの宴』のルーマニア語版を書く。	PUF創設。エリオット『荒地』
1923年 (25歳)	資金面と反ユダヤ主義の強まりによって、劇団 Insula を解散。イオン・ヴィネアやマルセル・イアंकによる雑誌 <i>Contimporanul</i> に参加。12月、パリへ行く。	翌年10月『シュルレアリスム宣言』
1925年 (27歳)	前衛雑誌 <i>Integral</i> の創設に関わり、イラリエ・ヴォロンカと共にパリ支部編集員となる。この雑誌の創刊でヴォロンカは「シュルレアリスムとインテグラリズム」と題された論文でシュルレアリスムは未来をもたず、あらゆる芸術ジャンルは統合された秩序であり、建設的でインテグラルでなければならないと、シュルレアリスムを批判する。フォンダーヌはこの雑誌で三つの詩篇をフランス語で発表する。	国家社会主義ドイツ労働者党結党。ムッソリーニ独裁宣言。ジッド『賃金使い』
1928年 (30歳)	アルチュール・アダモフやクロード・セルネ、モニ・ド・ブリ、ジョルジュ・ヌヴェーらが中心となって起こした雑誌『ディスコンティニューイテ』に参加。ブルトンは、元シュルレアリストのブリやヌヴェーが所属していることに苛立ち、アラゴンと共に、批判声明を出す。4月に彼のフランス語の第一詩集 <i>Trois Scenarii. Ciné-poèmes</i> 発表。	ブルトン『ナジャ』、ブニュエル『アンダルシアの犬』
1929年 (31歳)	レオン・シュエストフやブランクーシ、フッサールなどに関するエッセイを雑誌『ヨーロッパ』を中心に発表する。ヴィクトリア・オカンポの招待でアルゼンチンを旅行。	世界恐慌
1930年 (32歳)	<i>Rimbaud le voyou</i> をガリマールに応募するも、落とされる。アントナン・アルトールと知り合う。この時期から <i>Ulysse</i> の執筆が本格的に進む。	『シュルレアリスム第二宣言』

年	フォンダーヌの生涯	同時代の出来事
1931年 (33歳)	ジョー・ブスケを介して『カイエ・デュ・スッド』と連絡を取る。ハイデガーに関する記事を載せる。	フランス哲学会のキリスト教的哲学論争
1933年 (35歳)	ドゥノエル社から <i>Rimbaud le voyou</i> が出版される。ディミトリ・キルサノフと共にスイスで映画 <i>Rapt</i> の撮影。『カイエ・デュ・スッド』で精力的に論考を発表する。	ナチス政権掌握。ハイデガーのナチス支持。
1934年 (36歳)	マルティン・ブーバーと出会い、ヒトラーやファシズム、共産主義について対話を交わす。	バシュラール『新しい科学的精神』
1935年 (37歳)	『カイエ・デュ・スッド』上でキルケゴールの解釈をめぐり、ジャン・ヴァールと論争。第一回文化擁護国際作家会議に参加。	ツァラ、シュルレアリスムからの離脱を表明。
1936年 (38歳)	<i>La Conscience malheureuse</i> が出版される。再びアルゼンチンへ旅行に行く。帰路でジャック・マリタンとジュゼッペ・ウンガレッティに出会う。	フランス人民戦線結成
1937年 (39歳)	詩集 <i>Titanic</i> を発表。	パリ万国博覧会「近代生活における芸術と技術」
1938年 (40歳)	<i>Faux Traité d'esthétique</i> が出版される。フランス国籍を取得。レオン・シェストフの死。	マルティン・ブーバーがイスラエルへ帰還
1940年 (41歳)	徴兵され、216連隊歩兵となるも、捕虜となる。脱走するも、再び捕えられる。虫垂切除手術のため、一時解放され入院する。	ブルトン、渡米。
1941年 (42歳)	退院後、 <i>Ulysse</i> に手を入れ始める。 <i>Baudelaire et l'expérience du gouffre</i> を書くも、未完。	ベルクソン死去。太平洋戦争勃発。
1942年 (43歳)	<i>Ulysse</i> の第二版を出版。ジャン・レスキュールやエミール・シオラン、ステファン・リュパスコらと交流し、ソルボンヌのバシュラール講義に参加する。	カミュ『異邦人』
1943年 (44歳)	<i>Le Mal des fantômes, L'Exode</i> を書く。	サルトル『存在と無』
1944年 (45歳)	« Le Lundi existentiel et le Dimanche de l'Histoire » が、翌年ガリマールから出版される <i>L'Existence</i> に収録されることが決まる。3月7日にフランス人警察によってドラシーのユダヤ人仮収容所に姉と共に連行される。その後、出所許可が出たが、ルーマニア国籍の姉は出ることが許されなかったため、出所を拒否する。5月30日にアイシュヴィッツに送られる。10月2日もしくは3日にフォンダーヌはガス室で殺される。	ノルマンディー上陸作戦。パリ解放。ソ連がルーマニアを占領。

Bibliographie

- *Trois Scenarii – Ciné-poèmes*, Documents internationaux de l'esprit nouveau, 1928.
- *Ulysse*, Cahiers du Journal des Poètes, 1933.
- *Rimbaud le voyou*, Denoël, 1933.
- *La Conscience malheureuse*, Denoël, 1936.
- *Titanic*, Cahiers du Journal des poètes, 1936.
- *Faux Traité d'esthétique – Essai sur la crise de réalité*, Denoël, 1938.
- *Baudelaire et l'expérience du gouffre*, Seghers, 1947.
- *L'Exode – Super flumina Babylonis*, La Fenêtre Ardente, 1965.
- *Le Mal des fantômes*, Plasma, 1980.
- *Rencontre avec Léon Chestov*, Plasma, 1982.
- *Écrits pour le cinéma – Le muet et le parlant*, Plasma, 1984.
- *Le Festin de Balhazar – Auto-sacramental*, Arcane, 1985.
- *Le Lundi existentiel et le Dimanche de l'Histoire*, Éditions du Rocher, 1989.
- *Au seuil de l'Inde*, Fata Morgana, 1994.
- *Constantin Brancusi*, Fata Morgana, 1995.
- *L'Écrivain devant la révolution – Discours non prononcé au congrès international des écrivains de Paris*, Paris-Méditerranée, 1977.
- *L'Être et la Connaissance – Essai sur Lupasco*, Paris-Méditerranée, 1998.
- *Images et Livre de France*, traduit du roumain par Odile Serre, Paris-Méditerranée, 2002.

非－場（免訴）

『亡霊たちの悪』より

Le Mal des Fantômes, Verdier, 2006, pp.77-79.

私はこの詩を今世紀のむさぼるような食欲の中で書きたかった。もし私が抗うなら、この抵抗はどこから私のところへやって来たのだろうか？

私は、私の時代と心をともし、歴史と体を共にしたかった。なぜこうした傾向は私を拒絶したのだろうか？

私には、詩 (poème) が持つ自由やその限界、本質、そのおそるべき才能、取るに足らない困難と称するものと出会う機会が与えられた。私はそれを開くカギを知っている。私は弁証法の原理を裏切り、放棄した。

いや、詩情 (poésie) のことではない、そうさ、とんでもない！私より強力ななにか、〈決然とした〉なにかが私を後ろに引っ張って、前へ投げ飛ばしたのだ。私以上に力強いなにかが私に乗り込み、浸透し、私を貪って、私のとっておきの秘密の計画を攪拌し、類似点も何も無い、最も半端で、最も颯爽を買う抒情詩の構成の古臭い表現を介して、祝福が、予兆が、迷信が、駄洒落が、闇が、そして本質が取り憑いている精神の混乱を言い表すことを私に〈強制する〉。

滑稽さは、こうしたさかさまの探検、遠隔地の探索から私に現われる。逃げるため、避けるためになんでもやってみた。しかしいかなる障壁を用いるべきだろうか。そこで誰に対して呼び掛けるだろうか。同胞たちよ、私はあなた方と共にあった。それはできなかった。許してくれ！

I

私たちとは別の人々がこの命、
これらの海を渡った。見知らぬ人の
泡が彼らの顔の上で垂れている。

彼らは窓から窓へ、長い間
勇気も持たずに、彷徨ったのか！

彼らは可能性のヴェールが
かかった朝の日々を秤にかけたのか！

地平線の無いこれらの日々、襞の無いこれらの海、
名も無き大陸……忘却の真珠を漁る者たちのための
アメリカ大陸が何とたくさんあることか

沈黙する考えたちにも似た
群衆の渦が突如生じるとき

どれほどの思考の不調が…

誰が彼らに「冒険」の引き結び、堅結びの紐を
首の周りへ投げ出していたのか

(一杯の甘いシードルが

彼らの喉を宥めている間に?)

海軍のバー*よ！

縄の束、おお港よ、アコーディオンよ。
そしてこの鼻孔の中の〈時〉の香りよ。

…彼岸の恒星たちよ！季節の上で横になった
奴隷達による分厚い針で縫われた長大な書物…

何と心地良いのだろう、

あなたのおさげ髪の上で寝そべるのは
そして、眠りの泉で、帝国とブーツの大音量を忘れるのは
何と心地良いのだろう

〈前へ進め…〉

詩の拒否

『詩の時に』より

Le Mal des Fantômes, Verdier, 2006, pp.237-239.

歌の娘*たちがやってきた

－ 「あなた私たちが欲しい？ 私たちは裸で
唇はラベンダーの香りがするの」 …

－ 私はフィンランドの峡谷のことを思う
そこで凍りついた兵士たちが眠っている…

詩の塩の処女たちは

私に言った「私たちを愛する時がきた！
毛皮の下は裸だ。」

－ 私は水の下の子のことを思う
ガラスの向こうに沈んだ船を…

私が夢想する柔らかい売女は
私に叫ぶ「逃げなさい、潜りなさい、
魚たちが冷えて黙っているときに！」

－ 私はドイツの徒囚のことを思う
彼らは鞭打たれて痩せている…

眠りの甘美な母たちが

私を慈しむ 「寝なさい！
眠りの先端に向かって立っている足の指。

男の中で眠っている眠れる森の美女は
ただ愛撫のみを貪る…」

－ 私は巨大な炎のことを思う
土地の近くで燃えている炎を…

歯の欠けた死の老婆が

私に言った 「馬はそれぞれ自分の馬銜（はみ）がある。
地上のお前の取分は緩慢な死だ。
それが不満だろうか何だろうが、歌うんだ！
いかなる存在も感謝する権利はない…
何を考えている、ほんやりした影よ？」

－ おお とても大事な、プラハのことを私は思う！
私には聞こえない、私にはもはや聞こえない
プラハのシナゴグの祈りは…

(1943)

* マルセル・パニョの「マルセイユ三部作」に同名の店が登場する

** 歌の娘たち：旧約聖書「伝道の書」（12.4）に登場する。「通りのとびらは閉ざされ、白をひく音も低くなり、人は鳥の声に起き上がり、歌を歌う娘たちはみなうなだれる。」（新改訳、一一一五頁。）

de l'esprit nouveau
présentent : **C E**

S  **N A**

B ciné
poèmes
de **R I I**
b. fondane

avec deux photos de man ray

les documents internationaux

INTEGRAL

NUMÉRO 12



12


Les livres, les films, les revues de
conscience, les journaux, les
papiers, les revues, les journaux
de la littérature, de la poésie,
de la philosophie, de la science,
de la religion, de la morale,
de la politique, de la pédagogie,
de la psychologie, de la sociologie,
de l'économie, de la géographie,
de l'histoire, de la linguistique,
de la philosophie, de la science,
de la religion, de la morale,
de la politique, de la pédagogie,
de la psychologie, de la sociologie,
de l'économie, de la géographie,
de l'histoire, de la linguistique,

273

CONTIMPORANUL

ANUL I No. 18 2 Lei 18 Noembrie 1922

D. Brătianu limitează libertatea presei.



Sumarul acestui număr :

Măgarul aliajilor (poveste turcească) de Petre Ciocâncu. Nemurire (Poesie) de Al. O. Teodorescu. Iar libertatea Presei? de I. Vina. Sunteți pentru pedepșă cu moarte? (schimbă printre scriitorii, artiștii, și oameni politici români.) La Lozana de Aladin. Glasurile Vieții de I. Vina. Desen și vignete de M. Isac, etc. etc.

1922

DISCONTINUITÉ



REVUE DE LA LITTÉRATURE, DE LA PHILOSOPHIE, DE LA SCIENCE, DE LA MORALE, DE LA POLITIQUE, DE LA PÉDAGOGIE, DE LA PSYCHOLOGIE, DE LA SOCIOLOGIE, DE L'ÉCONOMIE, DE LA GÉOGRAPHIE, DE L'HISTOIRE, DE LA LINGUISTIQUE, DE LA PHILOSOPHIE, DE LA SCIENCE, DE LA MORALE, DE LA POLITIQUE, DE LA PÉDAGOGIE, DE LA PSYCHOLOGIE, DE LA SOCIOLOGIE, DE L'ÉCONOMIE, DE LA GÉOGRAPHIE, DE L'HISTOIRE, DE LA LINGUISTIQUE,

PREX - 1 FRANC